

◆ 敦賀港湾事務所合同安全大会を開催しました ◆

平成27年10月2日(金)に、福井県坂井市三国町において、敦賀港湾事務所管内の合同安全大会を開催しました。当事務所、福井労働基準監督署、事務所管内の工事に携わる安全協議会会員企業の80名が参加し、当事務所より北陸地方整備局(港湾空港部)の安全管理に係る取組方針を報告、福井労働基準監督署の新田署長より「リスクアセスメントの大切さ、集中度(緊張度)と表示」と題した安全講話、そして、請負工事受注者による安全対策への取組や設備の事例紹介を行いました。

この大会により、参加した工事安全協議会会員の安全に対する意識を、より一層高めていただきたいと思います。



北陸地方整備局(港湾空港部)取組方針の報告



安全大会の様子

◆ 先進的改良工法を愛媛県西条市議会が視察 ◆

平成27年11月12日(木)、愛媛県西条市議会の臨海地域振興特別委員会が当事務所に来所し、福井港海岸の護岸改良事業を視察されました。

同委員会では「西条市臨海部にある工業団地を南海トラフなどの巨大地震から守る技術」として液状化対策を検討しており、その先進的な事例である福井港海岸の護岸改良事業を見るのが目的です。

最初に当事務所の吉田所長が「福井港海岸では日本海特有の冬季風浪から護岸を守るために離岸堤整備と護岸改良を実施しています。本事業が地震対策検討の一助と成れば幸いです。」と挨拶しました。続いて、福井県福井港湾事務所の山田所長が「福井港の沿革」、当事務所の高橋副所長が「液状化対策事業の概要」をそれぞれ説明した後、現地の視察を行いました。

視察後の質疑応答では、「液状化対策で広範囲を止水すると地下水の逃げ場が無くなるのか?」との質問に対し「地下水位を確認しながら施工しているが変化は見られないので問題はないと考えている。」などのやりとりが行われ、本事業で行っている護岸液状化対策技術への関心の高さを感しました。



現地視察の様子



吉田所長の挨拶

From
Editors

●発行
国土交通省 北陸地方整備局 敦賀港湾事務所
所長・副所長(事務)・総務課・品質管理課
工務課・企画調整課・保全課・沿岸防災対策室
〒914-0065 福井県敦賀市松栄町2番43号
TEL:0770-22-2590 FAX:0770-21-8101
福井分室 副所長(技術)・総務課・工務課・海岸課
〒913-0037 福井県坂井市三国町黒目24字32
TEL:0776-82-1125 FAX:0776-81-7003

敦賀港湾事務所ホームページ
<http://www.tsuruga.pa.hrr.mlit.go.jp/>
北陸地方整備局 港湾空港部ホームページ
<http://www.pa.hrr.mlit.go.jp/>
「海とみなとの相談窓口」全国共通フリーダイヤル
大いに 良くなれ みなと
0120-497-370
※海やみなとに関するご意見、ご感想をお寄せください。

◆ 将来の建設界を支える担い手へ ◆

福井工業大学の学生を招いて、
現場見学と意見交換会を開催



現場見学の様子

現在、建設業界では、技能労働者の高齢化や若年者の減少による「担い手不足」が大きな課題となっており、このままでは災害時の緊急対策や復旧対策、また今後老朽化する施設の維持・更新にも支障を及ぼすことが懸念されています。

このため、当事務所および福井港海岸(福井地区)工事安全対策協議会では、平成27年9月17日(木)、福井工業大学の建築生活環境学科の学生67名を福井港に招き、

- ①就職を控える学生に直接的なアドバイス
- ②学生に将来、建設産業の担い手になってもらうための魅力発信
- ③将来の担い手である学生が何を感じて何を求めているのかを把握

することを目的とした、現場見学および意見交換会を開催しました。

当日は、石油備蓄基地や福井港海岸の工事現場を見学した後、意見交換会の場では、「公務員」・「建設会社(土木)」・「建設会社(建築)」・「建設コンサルタント」・「女性技術者」の各テーブルに別れ、実際に働く職員と学生との間で、仕事の内容や処遇、この仕事に就いた理由など、進路に直結した質問やアドバイスが交わされました。

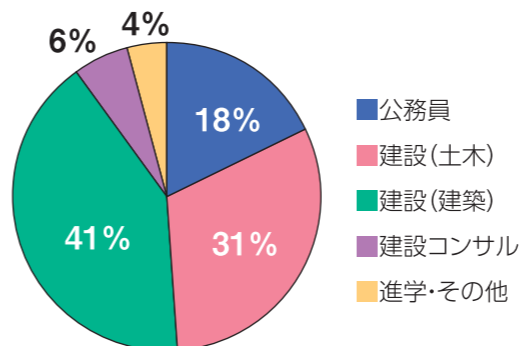
私たちは、これらの取組を通して、学生のみなさんに建設業の魅力や技術者の仕事に理解を深めてもらい、将来の担い手となってもらえることを期待しています。



意見交換会の様子

参加学生アンケート結果

1. 就職希望先



2. 意見交換会での感想

- 各職業のイメージが沸いた
- 普段聞けないことを企業の人に聞くことが出来た。
- 女性の視点から意見が聞けた。
- 資料が具体的に良かった。

など



[2015年 冬号 Vol.43]



目次

- 将来の建設界を支える担い手へ P1
- 「日本海にぎわい交流海道ネットワーク」総会を敦賀市で開催! P2
- 第16回サロン懇談会を開催しました
- 大野市の有終西小学校5年生28名が敦賀港を見学しました P3
- 「みんなあつまれ!! つるが海っこ広場」が開かれました
- 敦賀港湾事務所合同安全大会を開催しました
- 先進的改良工法を愛媛県西条市議会が視察 P4

◆「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」総会を敦賀市で開催! ◆

日本海側港湾の相互交流を図る「日本海にぎわい・交流海道ネットワーク」の総会・講演会が、平成27年10月8日(木)に敦賀市内で開催されました。

本ネットワークは、北は北海道から南は九州までの日本海を取り巻く48の自治体等から構成され、港を核とした日本海沿岸地域の交流拡大や発展等を目的とするものです。

総会には、開催市の洲上敦賀市長を始め、県内ではおおい町長や福井市、坂井市の担当者らが参加。その他地域も含め、計25団体からの参加があり、平成26年度の活動報告および平成27年度の取組が審議されました。

その後、一般参加者も含めた180人を前に、外務省外交資料館の白石課長補佐より、「人道の港敦賀」にちなみ、杉原千畝氏に関する講演、クルーズ客船「ぱしふいっくびいなす」の由良和久船長より、日本海側の魅力とクルーズ客船、と題した講演がありました。由良船長からは、「クルーズ船の乗客は、地元とのふれあいが印象に残り、また訪れたいと思う。」「日本海側の魅力は、自然が素晴らしいこと。その中の一つが夕日であり、夕日の写真コンクールなどにより、日本海の魅力を展開するのによいのでは。」など、日本海側へのクルーズ誘致に対するアドバイスがありました。

(参考) 日本海にぎわい・交流海道ネットワーク 「にぎわい広場」 ホームページ <http://www.nihonkai-nigiwai.com/>



洲上敦賀市長の総会挨拶



講演会の様子

◆第16回サロン懇談会を開催しました ◆

平成27年10月28日(水)、敦賀に関連する日本海沿岸地域の郷土史を調査研究する市民グループ「日本海地誌調査研究会」と当事務所が、敦賀港について意見を交換する「サロン懇談会」を開催しました。同懇談会は、行政や港湾関係者だけでなく、様々な分野の方々の意見を敦賀港の整備に活かしていくため、平成12年から毎年開催しており、今回で16回目となります。

開催にあたり、当事務所の吉田所長より「敦賀港のメイン事業として進めてきた鞠山防波堤も、今年度末には延伸完了を迎え、より円滑な港湾物流が可能となります。今後も皆様からの意見をふまえ、港湾整備を進めていければと思います。」と挨拶し、続いて日本海地誌調査研究会の繁田会長から「最初は、研究会員4名と港湾事務所5名で始まったこの懇談会も16回目を迎えることができ、ありがたく思っています。研究会員は、敦賀を愛する気持ちが強い人達ですので、大変な課題を投げかけるかと思いますが、よろしくお願いします。」と挨拶を頂きました。

その後、当事務所の辻企画調整課長から「敦賀港を取り巻く課題」、石井企画調整係長から「敦賀港の背後圏について」と題して、二つの情報提供を行いました。

意見交換では、「敦賀港の利用拡大には滋賀県湖西地域とのつながりを強くしていくべきでは」、「クルーズ船が寄港してもらえるような敦賀市の魅力ある街づくりが大切」、「敦賀港のソフト面の充実が課題」など、敦賀市や敦賀港が発展していくための様々な意見を頂き、活発な意見交換の場となりました。



柴田会長挨拶



日本海地誌調査研究会の皆様

◆大野市の有終西小学校5年生28名が敦賀港を見学しました ◆

平成27年10月19日(月)、大野市の有終西小学校5年生28名が敦賀港を見学しました。

今回の敦賀港見学は、港湾の理解を深めてもらうため、国土交通省港湾局が監修した「港湾学習教材(副読本)」を全国の小学校等にご案内したところ、福井県内では同小学校から申込みがあり、併せて港見学を行ったものです。

大野市は福井県の内陸に位置し、海に面していない地域ですので、日頃、馴染みの少ない海を船に乗って見学できるということを楽しんでもらえました。

見学では、新日本海フェリーが出港していく姿や内航コンテナ船が荷役している状況及び今年、新造船に切り替えられたRORO船が接岸しているところ等を見ることができ、特に新日本海フェリーが海上を進んでいる姿に児童達は大喜びでした。

児童達からは、石炭を荷役する機械を見て、「あれは何ですか?」や、「敦賀港には何隻の船が入港して来るのですか?」などの質問が出されました。

当日は、天気も良く波も穏やかで船酔いする児童もなく、無事に航海を終えました。午前中は敦賀港と「人道の港 敦賀ムゼウム」の見学を行い、午後からは北陸電力(株)敦賀火力発電所を見学し、大野市への帰路につきました。

今回の経験で、児童達には港の規模や船舶の大きさ、普段の生活と港の関わり等について何か記憶に留めてもらい、港湾について関心をもってもらえれば幸いです。当事務所としては、このような機会をもっと増やしていけるよう取り組んでいきたいと思っております。



船内の様子

◆「みんなあつまれ!!つるが海っこ広場」が開かれました ◆

平成27年10月31日(土)、敦賀市内の子どもたちに、海に親しむ機会と学びきっかけづくりを目的とした「みんなあつまれ!!つるが海っこ広場」(敦賀市西公民館主催事業)が開催されました。

第2回となる今回は、敦賀市からの要請を受け、当事務所が「敦賀港の役割」についての講義と、港湾業務艇「まつかぜ」による敦賀港見学を行いました。

はじめに、「敦賀港を知ろう!」と題して暮らしを支える港の役割を学んでもらいました。参加した子どもたちは、敦賀市内の小学2年生~中学1年生の11名で、低学年の児童にとってはちょっと難しい話もあったかと思いますが、普段の生活と港の関わりについて、熱心に聞いていました。



講義の様子

港見学では、タグボートによる貨物船の接岸状況や大型貨物船が3隻並んで着岸している姿などを見ることができ、講義で習った港湾施設の規模や配置、船舶の大きさ等を実感してもらえたことだと思います。

また、この日はあいにくの曇り空でしたが、航海中に船員さんがイルカを発見し、時折、水面上に表れる背びれを見ることができ、よい思い出になったと思います。

この事業は、今回の講義や港見学の他に、手旗信号やロープ結策の演習、保安巡視船の船内見学等の講座を設けています。当事務所では、このような機会を通じて、港への関心を高めていただくために、今後も協力していきたいと思っております。



船内の様子